

東山

栃木市立大平東小学校
学校だより 第3号
令和6年6月7日
学校長 新村 勲



日々の学校の様子や行事予定をホームページに掲載しています。ご覧ください。



保護者の方から声を掛けられました。「校長先生、ホームページ毎日更新してくださりありがとうございます。学校のことがよく分かります。子供と一緒に見えています。」と。
ホームページを毎日更新しています。このように感想などいただけると、とてもうれしいです。

前号でお尋ねした「学校東側道路のチューリップ」について、保護者の方が教えてくださいました。上高島の育成会の事業の一つで、親子で球根を植えたりお世話をしたりしているということです。素晴らしい活動です。チューリップが終わり、今はベゴニアが一行に並んできれいに咲いています。学校としても大変ありがたく思います。



「たくましい子」について

前号の続きです。今回は、教育目標の第三項の「たくましい子」についてお話します。

「たくましい心と体」を育てることです。

予測困難なこれからの時代を生き抜くには「たくましい心」と「たくましい体」が不可欠です。

問題は、そのような子供をどうやって育てるかです。

第一は、価値ある「体験」をいっぱいさせることです。

いろいろな運動やスポーツに触れさせ、体を動かすことの面白さを知らせるようにします。運動やスポーツに限らず、花や野菜を育てる、虫を捕まえる、動物を飼うなど、多様な体験をたくさん積みませます。

先日、3年生の男の子がカマキリの赤ちゃんを捕まえたといっ、興奮して教えてくれました。4年生の女の子がカナヘビを捕まえたといっ、うれしそうに教えてくれました。こういった「体験」が重要です。

幼い頃に体で覚えたこと、自分の手や肌、そして体全体で得たものが、きっちりと自分の本当の力になります。

休み時間や昼休みの外遊びは大変重要です。本校には、様々な遊具があります。東山もあります。外遊びを大いに奨励していきます。



第二は、その体験を「個人差」に応じてやらせるということです。

体力には大きな差があります。この体力差を、そのままにやると、運動を嫌う子も出てきます。

例えば、持久走で考えてみます。

持久走というと、学年ごとに距離が決められ、子供たちは自分の目標タイムを掲げながら取り組むのが一般的です。しかし、この方法だと特に高学年では、走り続ける時間にかなりの差が生じていました。持久走の時期になるとストレスを感じて、その他の活動にもマイナスの影響がでてしまう子も見受けられます。

そこで、「決められた距離」ではなく、「決められた時間走り続けること」にします。例えば、「5分間走」といって、5分間の走行距離を測定するようにします。体力差があっても同じ時間に運動が終了します。こうすることで自分に適したペースで走り続けることができます。



例えば、ドッジボール。担任の時には、男女対抗のドッジボールをやっていました。男子のコートをせまく、女子のコートを広く。男子が勝つごとに男子のコートをせまくしていきます。しまいには、男子のコートを1mに。「こんなの無理だよ〜！」と逃げ場のない男子が女子に当てられて楽しそうなのです。

体力差に関係なく、同じように楽しい汗を流し、共に運動の喜びを共有する。
こんな授業の工夫を学校全体で創り出していきたいと考えています。

心と体を育てる活動

◆熱心に清掃に取り組む子供たち

給食後の清掃の時間に、1年生から6年生の「なかよし班」で担当場所を清掃しています。班長の6年生を中心に班で協力して活動しています。どの班も熱心に取り組んでいます。

階段は1段1段を丁寧に掃除しています。トイレ掃除も熱心に行っています。昇降口では、一つ一つの下駄箱をきれいにする子、敷居の砂をきれいにする子などそれぞれの役割をしっかりと果たしています。高学年の児童が1年生に雑巾のしぼり方をやさしく教えています。丁寧に美しく雑巾を干しています。

大平東小の子供たちは、よく働くなあと感心しています。
子供たち一人一人に感謝の言葉を伝えています。

◆縦割共遊

昼休みに「なかよし班」で遊ぶ活動を定期的に行っています。6年生の班長を中心に遊ぶ内容を相談して決めています。

このような異年齢での遊びや活動は大変重要です。6年生が班をまとめていく経験を通して、下学年の気持ちを思いやる言動を学びます。進んで準備や片付けをするなど最上級生としての自覚や責任ある行動が見られるようになります。

また、下学年児童は、上学年児童との関わりの中で、集団としてのルールを学び、上学年への感謝や信頼や憧れの気持ちをもつようになります。

このような活動を大切にしていきたいと思います。

◆朝の立腰（りつよう）

立腰とは、文字どおり腰を立たせることで、姿勢が良くなるだけでなく、様々な利点があると言われています。

昨年度までは8時のチャイムと同時に校長が全校放送で「立腰」と言って、1分間全クラスで立腰に取り組んでいました。

今年度は放送で「立腰」とアナウンスした後に「立腰の詩」を読み上げるようにしました。

5月からは変化させて、詩の追い読みを取り入れました。

放送「腰骨を立てる」児童「腰骨を立てる」、放送「下腹に力を入れて」児童「下腹に力を入れて」・・・、という方法です。

職員室まで、子供たちの声が響いてきます。多くの子が、この詩を暗唱してしまったようです。

6月からは、全校放送による方法ではなく、各クラスでそれぞれの状況・実態に応じて取り組むことにしました。



階段を1段1段雑巾がけ
清掃は全身運動



1年生に雑巾のしぼり方を
教える高学年児童



なかよく「だるまさんがころんだ」

「腰骨（こしほね）を立てる」
下腹（したはら）に力を入れて
腰骨をシャンと立ててごらん
肩や腕に力を入れなくて
顎（あご）を引きましよう
素晴らしい姿勢です
元気な体のもとです
頭が澄んできます
あなたのわがままに、勝てる姿勢です
あなた自身を、見直す姿勢です
厳しい世の中を、のりきる姿勢です

